



はーと なび



一般社団法人 全国腎臓病協議会

〒170-0002 東京都豊島区巣鴨 1-20-9 巣鴨ファーストビル3階

TEL:03(5395)2631 FAX:03(5395)2831 E-mail:sougei@zjk.or.jp

2016年5月31日発行

全腎協 四国地方で大規模な通院実態調査を実施！ 離島・過疎地域の会員対象に調査 報告会を9月に開催

通院に困難を感じる高齢透析患者は、増加傾向にあるといわれています。では、数年後、具体的にそのような高齢患者は何人に増え、どのような形で通院にお困りになるのでしょうか？

この問いに答えるために、全腎協・通院介護委員会は、四国地方（徳島、香川、愛媛、高知、の4県）の離島・過疎地域にお住まいの会員を対象とした通院に関するアンケート調査を行いました。

四国が調査地域となったのは、同地域の高齢化の状態ががおおむね2025年の日本と同様であるためです。2025年の高齢化率（総人口に占める65歳以上人口の割合）は全国平均30.3%、現在の四国4県の平均高齢化率も30.3%です。つまり、四国は9年後の日本を先取りした状態と考えられます。そのなかでも、公共交通機関や介護事業所等が少なく特に通院困難が発生しやすい地域として、離島（離島振興法の定義に依る）・過疎地域（過疎地域自立促進特別措置法の定義に依る）を調査地域としました。

全腎協の最新の实態調査（2011年度）によれば、現在の会員は60～69歳の方が最も多く（39.3%）、通院手段が「自分で運転する自動車」の方が全体の約半数となっています（48.5%）。また、300メートル程度の歩行であれば、8割以上の方が「不自由なくできる」と回答しています。このように、一見すると大多数の会員は前期高齢者で“ひとりで通院できる”ように見えます。しかし、この方々が9年後も同じ状態でいられるのでしょうか？多くの方が後期高齢者となり、単身での自家用車による通院ができず、通院困難となるのではないかと通院介護委員会は危惧しています。今回のアンケート結果は、この委員会の危機感がどの程度正しいのかを証明するものとなるでしょう。

調査結果の概要は「はーと・なび」等でもご報告しますが、通院介護委員会では、この調査の報告会を9月に香川県内で開催します。報告会の開催について詳細は、追ってお知らせいたします。

本年度の通院介護委員長に 全腎協秋山専務理事が就任

本年度の通院介護委員会について、委員長に秋山祐一専務理事が就任しました。

本年度の委員会体制は次のとおりで、原則的にメンバーは変わりありません。

委員長 秋山 祐一（全腎協専務理事）

委員 馬場 享（全腎協会長）

委員 金子 智（全腎協常務理事）

委員 池田 充（富山県腎友会会長）

（上記にくわえ、事務局より八木）

本年度の通院介護委員会は、前述の四国に

おける通院調査を中心に、引き続き通院・介護の課題に取り組んで参ります。

《トピックス》

相乗りでのタクシー券利用可能に 秋田市腎友会の取り組み（秋田）

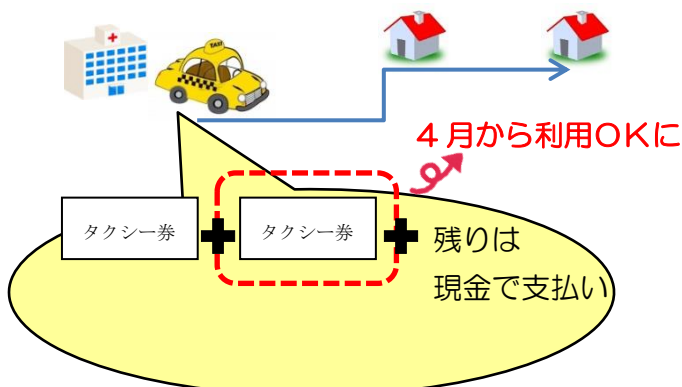
秋田市腎友会の長年の取り組みにより、秋田市内でタクシーに透析患者が同時に複数名乗車した場合（相乗り）、乗車人数分のタクシー券を利用することができるようになりました。

福祉タクシー券の利用方法は市町村ごとに異なりますが、多くの自治体がタクシー利用1回につき1枚と定めています。秋田市も同様であったため、透析患者が通院時にタクシーを相乗りした場合でも、1枚しか使うことができませんでした。

秋田市腎友会では、長距離を通院する患者が多いことから、相乗り時に複数枚のタクシー券を使用できれば患者負担が減ると考え、かねてより市行政や議会への要望活動を行ってきました。約4年にわたる取り組みの結果、本年4月1日より相乗り時の複数枚利用が認められることになりました（図参照）。

腎友会には、このことを知った会員からさっそく喜びの声がよせられているとのこと。市腎友会では、一人の患者が一度に複数枚のタクシー券を利用することについても認めてもらえるよう、さらなるタクシー券の柔軟利用にむけて、市に働きかけたいとしています。

図：2名の患者が相乗りする場合



ステップ福岡 熊本地震被災者を支援 福岡市内に避難の患者を送迎（福岡）

現在、送迎団体「ステップ福岡」では、熊本地震に被災され福岡市内に避難された透析患者1名の送迎を無償で行っています。

「ステップ福岡」が送迎を行っている患者さんは、特に被害が深刻とされる熊本県上益城郡の方で、ご自宅・通院先の透析施設ともに被災され、現在は福岡市内の親類宅に身を寄せておられます。福岡市内の透析施設に通うことになりましたが、視力障害があり、不慣れた土地での一人での通院に困っていたところ、行政の仲介で「ステップ福岡」を利用することになりました。

「ステップ福岡」はすでに多くの利用者を抱えており、新たな利用者を引き受けるのは決して容易なことではなかったはずですが、行政からこの送迎の打診を受けた時、迷わず送迎を引き受けることにしたといいます。副理事長の落合律子さんは、「被災された患者さんのために、今私たちにできることをしようと思いました。お金の募金ではなく、心の募金として、助け合いの精神からお引き受けしました」。また、「福岡に行ってよかった、と患者さんに思ってもらいたい」という気持ちから、無償で送迎することにしたといいます。「ステップ福岡」では、4月27日より送迎活動を開始しました。

地震そのものは収束しつつありますが、この患者さんのように自宅に戻れない方がまだ多くいらっしゃいます。被災された方の生活がもとに戻るまで、長期的な支援が必要とされています。

《事務局より》

■ 2015年度活動状況報告書について

いつも通院介護支援事業「活動状況報告書」の提出にご協力いただき、ありがとうございます。

みなさまのご協力により、2015年度の送迎実績の集計作業は無事終了いたしました。集計結果は本年の全腎協全国大会（兵庫県にて5月15日に開催）の資料集に掲載いたしました。

今後とも報告書の定期提出にご協力下さいますよう、よろしくお願いいたします。

■ 「はーと・なび」は100号になりました

おかげさまで、「はーと・なび」は前身の「いどばた」から数えて通算100号目の発行を迎えることができました。

通院・介護をテーマに定期発行をいたしますので、今後とも「はーと・なび」を宜しく願い申し上げます。

■ 全腎協 講師派遣制度をご活用下さい！

全腎協では腎友会・送迎事業所の立ち上げを検討している方等を対象に、通院送迎に関する勉強会、講演会への講師派遣を行っております。講師は、通院介護委員会の委員を中心に、全腎協役員のほかテーマに合った人材を派遣いたします。

通院送迎や介護保険、またその周辺知識に関する講演会、勉強会、研修会等の催しの際にぜひご活用下さい！

【テーマ】

- 全腎協通院介護支援事業の歴史
- 福祉有償運送とは
- 送迎事業所の開設ノウハウ
- 介護保険と通院送迎

- デマンド型交通導入のノウハウ
～地域ぐるみの送迎システム構築について～
- 富山型デイサービスとは

【講師】

馬場 享 通院介護委員（全腎協会長）

金子 智 通院介護委員（全腎協常務理事）

池田 充 通院介護委員

ほか

【お申し込み方法】

希望開催日の2ヶ月前までに、“通院送迎の講師派遣希望”として、全腎協事務局・送迎担当までお電話下さい。その際、テーマと講師についてご希望をお聞かせ下さい。

TEL：03-5395-2631

その他、本件に関するお問い合わせ等も、上記までお願いいたします。皆さまからのお問い合わせをお待ちしております。

